

数学

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
数学	数学Ⅱ	2	2年次・F2群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
新 高校の数学Ⅱ（数研出版）		Study-Upノート 数学Ⅱ		2年次継続履修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	第1章 複素数 と方 程 式	第1節 式の計算 1. 式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 分数式の計算 確認問題	4 5	多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。	1 2 3 1 2 1 2 2
			第2節 複素数と方程式 4. 複素数 5. 2次方程式の解と判別式 6. 解と係数の関係	6 7	数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、2次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3
	2 学 期	第2章 図形と 方程式	7. 多項式の割り算 8. 因数定理 9. 高次方程式 確認問題	9 10		1 2 1 2 1 2 3 2
			第3節 式と証明 10. 等式の証明 11. 不等式の証明 章末問題 コラム	11	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	1 2 3 1 2 3 3
			第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点	12	座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	1 2 1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期		3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 確認問題	1	座標や式を用いて、円の性質や関係を数 学的に表現し、それらの有用性を認識す る。また、図形を与えられた条件を満た す点の集合として認識するとともに、不 等式を満たす点の集合が座標平面上の 領域を表すことを理解し、事象の考察に 活用できるようにする。	1 2 1 3 2
		第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 軌跡 8. 不等式と領域 確認問題 問題 コラム	2		1 2 3 1 2 1 3
			3		1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○学習内容（定義、公式や定理） を理解できているか。 ○解法を理解できているか。 ○問題を解くことができている か。また、答えを正しく求める ことができているか。	○学習内容を理解しようとしてい るか。 ○解法を適切に式で示すことがで きているか。 ○学習内容を関連付けて考えるこ とができているか。		○学習内容に興味、関心をもち、内 容を考察し、自ら調べようとし ているか。 ○積極的に問題に取り組んでいる か。
	手 段	・例題、練習、発展問題、課題 ・小テスト、定期考査などの試験	・例、練習、発展問題、課題 ・小テスト、定期考査などの試験		・例、練習、発展問題、課題 ・授業中の取組状況 ・小テスト、定期考査などの試験
	単元末や学期末及び年次末にお ける評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と、学期末の総括を行 い評価する。		
	学習上の 留意点	・毎時間、積極的に学習に取り組むこと。 ・提出物は、内容を確認しできていることを確認して、期日厳守で提出すること。 ・定期考査では、しっかりと復習をして臨むこと。			

教科名 数学

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
数学	数学Ⅱ	2	3年次・J1群	選 択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
新編 数学Ⅱ（数研出版）		Study-Upノート 数学Ⅱ		2年次・F2群の継続履修

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	第4章 三角関数	第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用 補充問題、コラム	4	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
			第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 補充問題、コラム、章末問題	5 6	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1 2 3 1 2 3 3
		第5章 指数関数・対数関数	第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 補充問題、コラム	7	指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1 2 3 1 2 3 3
			第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 補充問題、コラム、章末問題	9	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	2 <
--	--